

《Lesson 5》 It △△ that ～ の文

《 It △△ that ～ 》

- (1) “It △△ that ～” は「～は、△△です」と主に訳される形。
- (2) that の後には「文」が入る。
- (3) “I know that ～” や “I think that ～” と同じで、that を省略することも可。

It △△ (that) ～.

(～は、△△です)

<例> **It** is important **(that)** you talk with him today.

(あなたが、今日彼と話すことは重要です)

It is weird **(that)** she doesn't have any money.

(彼女にお金が全くないのは変です)

【 “It △△ (that) ～” の文：作り方】

ステップ①：「主語」になる文を見つけて“(that) ～”の形にする。

ステップ②：「主語が何(どういう状態)なのか」を見つけて“ “It △△” の形にする。

ステップ③：“It △△ (that) ～” の形にする。

<例1> 「あなたが、今日彼と話すことは重要です」

ステップ①：「主語」になる文を見つけて“(that) ～”の形にする。

主語：「あなたが今日彼と話すこと」 = (that) you talk with him today

ステップ②：「主語が何(どういう状態)なのか」を見つけて“ “It △△” の形にする。

何なのか：「重要です」 = It is important

ステップ③：“It △△ (that) ～” の形にする。

It is important (that) you talk with him today.

<例2> 「彼女にお金が全くないのは変です」

ステップ①：「主語」になる文を見つけて“(that) ～”の形にする。

主語：「彼女にお金が全くないの」 = (that) she doesn't have any money

ステップ②：「主語が何(どういう状態)なのか」を見つけて“ “It △△” の形にする。

何なのか：「変です」 = It is weird

ステップ③：“It △△ (that) ～” の形にする。

It is weird (that) she doesn't have any money.

ポイント！ 主観的判断や感情を表す It ~ that ~should ~. の形

It の後に入る形容詞によっては、that の後の文章に「**should + 動詞の原形**」が入る場合がある。これは、「主観的判断」や「感情」を表す場合であり、この should は「~すべき」という意味ではなく「**~であろう**」という推定を表す。また、この should が省略される場合もある。

<例> It is important that he **finishes** this in time.

(彼がこれを時間内に終わらせることは、重要である)

《客観的事実。誰が見ても「終わらせるのは重要」という場合》

It is important that he **(should) finish** this in time.

(彼がこれを時間内に終わらせることは、重要であろう)

《主観的判断。実際は「遅れても問題ない」かもしれない場合》